五合、大刀契鈴印等也、即位最前供物擇吉日之由有舊說、觸穢之時、恒例供神物先例不同歟、寛治八年、陽明門院崩之時、無沙汰有内侍所之御供物、三月一日也去々年、内大臣穢及禁中時供之、今度諸社祭雖延引、准彼例有供物、但又被止有例、可在時議事歟、賢所御衣、上古被奉、自中古絶、周防内侍曰、女御裝束也、但只以夏生衣冬練絹被奉也、從二位親子、私奉美麗女裝束也、

〔禁秘御抄上〕夜御殿

御枕有二階、奉安御劔神璽、皆有覆、蘇芳也

〔菅家文草十一〕爲温明殿女御、御源清和女真子奉賀尚侍殿下六十算、修德願文、貞觀十三年十二月十六日○願文略

○按ズルニ、神器ヲ別殿ニ奉ゼシハ、何ノ世ニ在リシカヲ審ニセズ、江家次第、禁秘御抄等ノ諸書ニハ、垂仁天皇ノ時ト爲シ、本朝事始禁秘御抄階梯所引ニハ、崇神天皇ノ時ト爲セドモ、並ニ確實ナラザルガ如シ、其說ニ温明殿ニ御スト云フヲ視テモ、其後ニ在ルヲ知ルベシ、カヽル名稱ノ當時ニ在ルベクモアラヲバナリ、温明ノ字面ハ、漢書霍光傳ニ見エテ、光薨、上帝○宣及皇太后、親臨光喪、賜金錢繒絮東園温明ト云ヒ、服虔ノ注ニ、東園處此器、形如方漆桶、開一面漆畫之、以鏡置其中、以懸屍上、大斂幷蓋之ト云ヒ、顏師古ノ註ニ、東園署名也、屬少府、其署主作此器也ト云ヘルガ如シ、七修續稿ニハ之ガ說ヲ爲シテ云ク、世之古鏡、多出北方古墓、人知而寶之、未知墓出故也、按、漢書霍光傳、光之喪賜東園温明、服虔註、以東園出鏡之所、予恐温明鏡名也ト、殿ヲ温明ト名ヅクルハ、蓋シ鏡ノ名ニ由レルナラン、而シテ崇神垂仁ノ朝ニ此名ナキヤ必セリ、

〔古今著聞集一神祇〕内侍所は、むかしは清涼殿にさだめおかせまゐらせられけるを、おのづからぶれいのことともあらばそのおそれ有べしとて、温明殿にうつされにけり、此事いづれの御時のことにかおぼつかなし、かの殿、清涼殿よりさがりたる便なしとて、内侍所にさだめられたる方をば、板敷をたかくゑきおげられたりけるとぞ、